２．サロベツ地区の概要

サロベツ地区は、北海道の北端に近い宗谷丘陵の南西側に位置し、日本海に面する面積約477㎢の地域で、行政的には、稚内（わっかない）市の南部、豊富（とよとみ）町、幌延（ほろのべ）町、天塩（てしお）町北部にまたがる地域です(図－１)。

サロベツ地区の中核を占めるサロベツ原野は、面積約216㎢の日本有数の大湿原で、東西約８ｋｍ、南北約 27ｋｍにわたり、丘陵や砂州･砂丘を交互に挟んで日本海に面しています。また、わが国の泥炭地としても石狩平野、釧路湿原に次ぐ規模を有しており、北は兜沼（かぶとぬま）付近から南は天塩川（てしおがわ）の流域まで標高８ｍ以下の低地が広がり、海跡湖（かいせきこ）として知られるペンケ沼（ぺんけとう）やパンケ沼（ぱんけとう）などの大小の湖沼が点在しています。

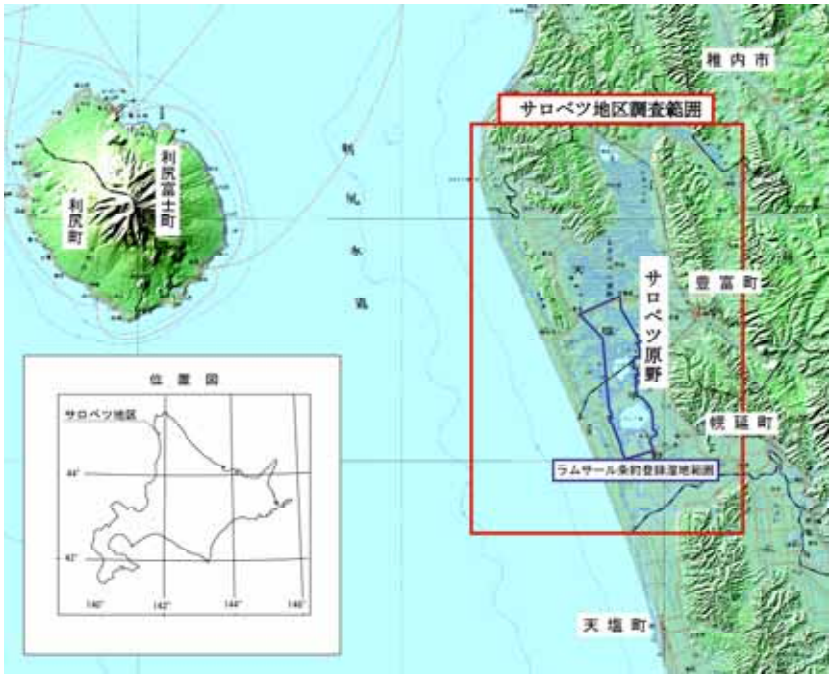
湿原は、高層湿原～低層湿原にわたり多様な植物（ミズゴケやワタスゲ、ヨシ等）が生育しています。また、ここには、ヒシクイやオジロワシ等の鳥類、さらに、エゾシカやユキウサギ等の哺乳類も多数生息しています。

サロベツ原野の大半は、1974（昭和49）年に「利尻礼文サロベツ国立公園」に指定され、また、サロベツ原野の中心部分である25.6㎢は、2005（平成17）年11月の「ラムサール条約第９回締約国会議」で同条約の登録湿地の「サロベツ原野」として認定されました。

この地域の気候は、夏期間も冷涼で、冬期間は風の日が多く寒冷で乾燥しています。また、風の強い地域であることを活かし、近年、幌延町浜里に風力発電用の風車が28機設置されています。

地域の人口は、稚内市（41,541人）、豊富町（4,883人）と幌延町（2,778人）、天塩町（3,921人）となっています。

主な産業は、酪農で、昭和30年代に畑作から酪農へと転換を図り、その後の生産基盤の整備等により､全道的にも主要な酪農地帯として発展してきました｡サロベツ原野とその周辺には、牧草地が広がり、乳牛は、豊富町で17,420頭、幌延町で10,369頭が飼育されています。



図－１　サロベツ地区の位置